

Wikiを活用した旅行用気象情報サイトの構築について

中山秀晃、青木健二、高橋祐介（日本気象予報士会）

1. はじめに

現在、日本気象予報士会の長期予報利活用研究会において旅行者向け気象情報の提供方法を開発中である。その派生物としてWikiという閲覧者が自由に書き込める形式のWebシステムを活用して新しい気象情報を提供しようと考えている。将来的には、旅行用気象情報のみでなく、地域の防災情報への活用も視野に入れて、情報基盤の整備を進めていきたい。

2. 今、求められる気象情報とは何か

日進月歩の気象予報技術ではあるが、新しい技術ができてそれが、一般利用者に上手く伝わらなくてはその意味は半減してしまう。気象庁プロダクツをはじめ、各種データを収集、解析、翻訳して各種メディアを通して不特定多数または特定の利用者に気象情報を伝えるという一連の天気予報にはある意味で限界があると思われる。それは、この夏に頻発した局地的な災害への情報提供をみても明らかである。

そこで、違ったアプローチから気象情報を作り出すことを考えている。ユーザの立場から考えると必要となる気象情報は実にさまざまである。不特定多数ではなく個人向けの気象情報の提供が求められてくるのではないかと。そして、情報提供の仕方もユーザの要求に応じて柔軟に考え、気象情報に加えてプラスの情報を提供していくことが大切だと感じている。情報のやり取りは当然ながら双方向であり、ユーザとのやり取りの中から満足の得られる天気情報（気象情報+）が生み出されていくのである。

3. Wikiの利点と活用法

WikiとはWebブラウザを利用してWebサーバ上のハイパーテキスト文章を書き換えるシステムのことで、利用例としてフリーの百科事典などが有名であろう。このシステムを応用して全国に居住する気象予報士が、現在の気象状況を記入することが第一段階である。その情報は地域別、時間別にまとめられており、必要があれば情報を整理できる。内容は以下のようなものである。

地域別に本日の天気現況や災害に繋がる現象などをリアルタイムで記入していく。

日本各地の地域ごとの気候特性を季節ごとに記入していく。

ユーザからの要望に応じて、旅行に特化した現地の天気現況や旅行が楽しくなるような各種情報を記入する。

災害に繋がる緊急情報を記入する。

このような内容が全国から記入されて、その情報が共有できるようになると、様々な情報提供が可能になると考えられる。例えば

旅行先の天気情報を離れたところから提供する。

災害に繋がる現象など気象観測所の間隙を埋める情報を提供する。

日本各地の四季折々の気候特性を蓄積しておいて、必要に応じてユーザに言葉で伝えていく。

など様々な活用法が可能となる。当初は旅行先の現況を知る目的で考案した仕組みではあるが、その他にもいろいろと使い道が有りそうである。

4. 課題と成果および展望

今のところ、Wikiシステムを立ち上げて間もないこともあり、情報量が絶対的に不足している。日本気象予報士会のML等を通じて会員に周知し記入内容を増やしていきたい。加えてWikiは「誰でも記入すること」ができるが、その反面、「誰からでも書かれてしまう」ことも十分あり得る。そのため、内容の改ざん、場合によっては人権・知的財産権を簡単に侵害される恐れもある。また、書き込みを認証機能で制限することができるが、そのことで利便性が損なわれてしまう。その兼ね合いを如何にするかが課題の1つである。

一方、当初の目的である旅行者向け気象情報では、有る程度の仕組みができてきており、そこに旅行先（現地）の予報士からの情報が加わると、さらに楽しく役立つ旅行用気象情報が開発できると考えている。

長期予報利活用研究会のメンバー間では、お互いの旅行や出張に際してユーザ役と情報提供側に別れて実践研究を行っている。研究成果としては

旅行前に旅行期間中の大まかな天気がわかると、旅行計画が立てやすく便利である。

ユーザとのメールのやり取りの中で、旅行先の気候気象について伝えることができ、服装の準備や災害に対する心構えを伝えることができる。

ユーザ側からもみても知的欲求が満たされる面があり普通の旅行とはひと味違った満足感が得られる。旅行者は災害弱者であるという視点から、緊急の場合の情報伝達に使える可能性がある。

気象情報に加えて、地元の子報士が季節のイベントや郷土料理、お土産情報など地域密着型の情報提供を行うことで、付加価値を高めることができる。

以上の研究成果が明らかになってきている。

今後は、研究実践を積み重ねるとともに、量的にも質的にも情報を高めていき、いろいろな方向で新しいタイプの気象情報を開発したいと考えている。そして、近い将来には産業界と連携をして社会貢献ができるビジネスモデルを構築したいと考えている。

参考文献：中山秀晃,2008：国内旅行における一ヶ月予報及び週間予報の利活用について、日本気象学会春期大会予稿集D152

図1: Wikiシステムと気象サービス

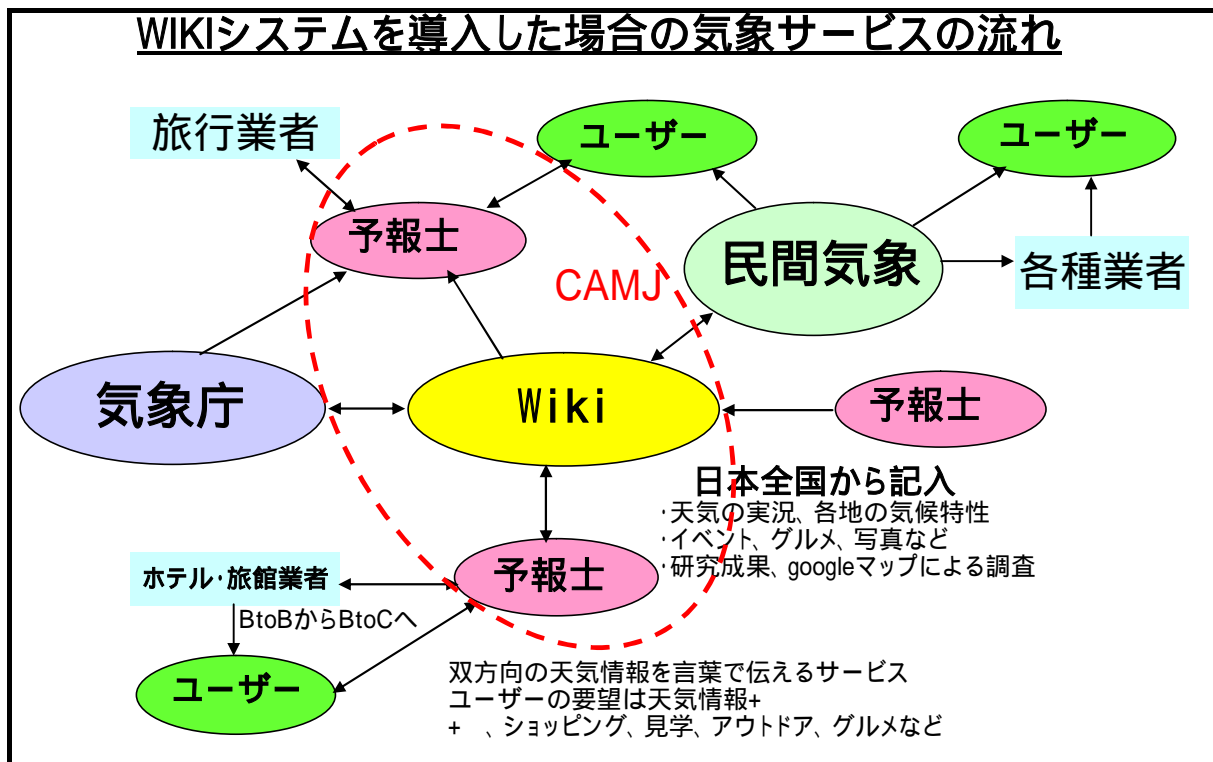


図2: WIKIのトップ画面

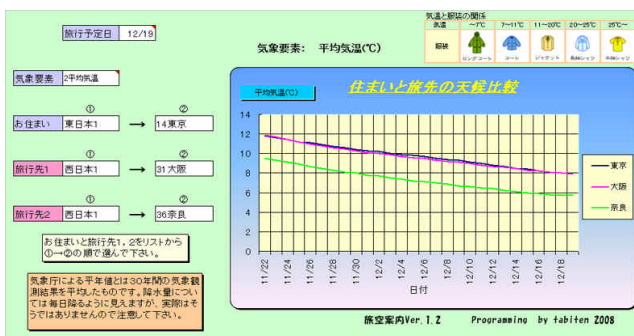


図3: 第1回雨雪判定(2009年1月9日)



図5: 旅行用天気図

図4: 旅行用平年値比較ソフト



12月下旬の平均気温偏差分布(南九州-東京)と旅行経路

